

本大会申し合わせ事項

本大会は、日本卓球協会(JTTA)の規則により行うが、以下に記載した改正・例外および変更については、本大会の申し合わせ事項として、JTTAの規則より優先されるものとする。

【車いす使用競技者の規則】

車いす使用競技者は、日本卓球協会(JTTA)のルールに従ってプレーするものとする。ただし、特例として、以下の審判長判断事項を認める。

【立位競技者の規則】

立位競技者は、日本卓球協会(JTTA)のルールに従ってプレーするものとする。ただし、特例として、以下の審判長判断事項を認める。

【競技上の注意について】

出場選手は、ゼッケンを着用すること。

- ① 日本卓球協会指定ゼッケンも可
- ② ゼッケンを作成する場合、サイズは 縦 20cm×横 25cmとする。
- ③ 本大会において、ネームプリントされているウェアを認める。

【審判長判断事項】

- ① 選手が競技する前に、障害のため正規なサービスができないとの申告があれば、審判長の判断により、正規のサービスのため条件を緩和することができる。
- ② 選手が障害のため、競技中身体のバランス回復のため、フリーハンドで卓球台を掴む・触れる等の要求を事前に申告すれば、審判長により決定することができる。

【車いす競技のルールについて】

シングルにおけるサービスのルール

- ① エンドラインを通過せずサイドを横切ったものはレットとなる。
- ② レシーバー側の台でバウンドした後、ネットの方向に戻った場合、または制止した(エンドラインを通過しない)場合は、レットする。

ダブルスにおけるサービスのルール

ダブルス競技

- 車いす使用者のダブルス競技は、「上記2」により有効なサービスを行い、レシーバーが有効なりターンをする。その後は、ペアのどちらかが打球する。(当該チームのペアは、交互に打球する必要はない。)

- ② 当該選手の手車は、テーブルのセンターラインの延長線上を越え、自己のパートナー領域にはみ出してはならない。センターラインの延長線上を越えた場合は、相手にポイントを与えるものとする。ただし、車椅子がはみ出すことなく、身体がセンターラインを越え、打球することは有効である。

卓球台への接触

打球後、身体バランスの回復(危険防止)のために、卓球台を動かさないことを条件に、ラケットハンドを卓球台へ接触することができる。ただし、手車の方向等をコントロールするために、卓球台を掴む・触れる等の行為は禁止されており、その行為を行った場合は相手方の得点となる。

手車

- ① 手車には、少なくとも2個の大きい車輪と、1個の小さい車輪が必要である。
- ② フットレスを取り付けることは可能だが、プレー中は、足を床に触れないものとする。触れた場合は、相手の得点となる。
- ③ 本大会の試合では、ストラップまたは他の補助器具を使用することができる。